

カット野菜供給拠点の整備による広域な野菜産地振興

株式会社アドバンス：R2～R4）

ポイント

- カット野菜の供給拠点（奈良工場）の整備と実需者ニーズに応じた広域産地の栽培基準の統一等により、キャベツ、レタス、大根、人参等の国産野菜を原料としたサラダ用カット野菜の製造・安定供給モデルを確立。
- カット野菜の業務用向け出荷量や契約取引の割合増加により、加工向け国産原料の安定供給を実現。

取組内容

①生産安定・効率化機能

- ・長野や静岡で自社農場や複数の連携生産者によるキャベツ等の生産体制を整備することにより、サラダ野菜に必要な不可欠なキャベツ、レタス系、大根、人参等の主要品目の安定生産・仕入れを可能とした。

②供給調整機能

- ・新たな需要を捉えたサラダ野菜を安定出荷するため、不足していた加工処理能力の増強や多様な商品の生産機能の強化し、実需者（小売事業者）からの多様なニーズに対応可能とした。

③実需者ニーズ対応機能

- ・連携者と栽培基準を作成・共通化し、原料野菜の生産品質を向上・安定化させることにより、消費者ニーズに応えるサラダ野菜の品質安定化に取り組んだ。

支援内容

● 農産物処理加工施設の整備

導入設備：野菜洗浄機、スライサー、包装機、冷蔵庫ほか

処理量(R6目標値)：808 t/年（出荷商品ベース）

（内訳：キャベツ210t/年、レタス72t/年、大根96t/年ほか）

主な成果

・約3億円の需要確保と生産拡大

奈良工場でのカット野菜製造により年間約3億円の安定した販路を創出。売り先が保証されたことで、生産者が安心して栽培面積を拡大できる環境を整備。

- ・総出荷量に占める業務用向け出荷量の割合を33.9%から100%に拡大。（全量業務用化）273t/年→882t/年(R6実績)

- ・全出荷量に占める契約取引の割合を0% から94.1%に向上し、安定取引供給を確立。
（いずれもR2→R6の変化）

実施体制

